



## 感謝状贈呈式を開催

～数多くの困難を乗り越え事業が完了～



感謝状贈呈式を終えた工事受注者と記念撮影

平成28年4月に発生した熊本地震により被災した熊本県管理の治山施設の復旧事業（阿蘇地区特定民有林直轄治山施設災害復旧等事業）が昨年末に完了したことから、3月2日に工事受注者11社に対して原田局長から感謝状を贈呈しました。

今回実施した特定民有林直轄治山施設災害復旧等事業は、森林法施行規則第78条第2項に基づき、  
①特定大規模災害の認定  
②都道府県知事からの要請  
③地域の実情、国の事務の執行に支障がないことが事業実施の要件であり、平成23年に発生した東日本大震災で被災した宮城県気仙沼地区に続いて2例目となります。

【事業概要】  
（実施地区）阿蘇市、南阿蘇村（区域数）17区域  
（実施内容）溪間工34基

山腹工3箇所  
（事業費）約17億円

事業実施においては、発注工事の増加により労働者が不足したため地域外から労働者を確保した場合の間接費補正や資材高騰によるコンクリート単価等の見直しなどを実施、施工面においては、平成28年10月に阿蘇山が噴火したことから二酸化硫黄などの有毒ガスに備えガスマスクの携行や、施工地が県内でも有数の極寒地であったことから積雪や凍結等による工程の遅れ、資材搬入や施工箇所が他事業と錯綜したことによる施工調整など多くの課題に対応が必要となりました。

また、施工地のほとんどが国立公園内であったため景観に配慮した工法の採用や牧野道を利用して工事を進めたことから牛馬への防疫対策（車両の消毒等）を行うなど数多くの困難を乗り越え事業が完了しました。

2月18日には熊本県に対して完了報告を行い、県知事から「高度な技術と経験を持って早期に完了していただいた。安全と安心をいち早く取り戻すことができ、地域の方々も大変喜んでいきます」と感謝の言葉をともに感謝状をいただき、国の機関としての責務を果たすことができました。

今後も集中豪雨や暴風等による山地災害リスクが高まる中、国民の生命・財産を守るため地域や関係機関と連携を図り、より効率的・効果的な治山事業に取り組んでいくことをとします。

【工事受注者11社】  
・九州緑化施設（株）  
・清川産業（株）  
・小牧建設（株）  
・大政建設（株）  
・（株）坂下組  
・昭和建設（株）  
・（株）山崎産業  
・岩田建設（株）  
・木田建設（株）  
・吉原建設（株）  
・第一建設（株）

（担当）三治山課



熊本県知事からの感謝状



# 屋久島レク森の 先進地調査を実施

【熊本森林管理署】2月12日から14日の3日間において、熊本県東北広域本部林務課、菊池市商工観光課及び当署関係者の9名で、レクリエーションの森の維持管理体制が構築されている屋久島の先進地調査を実施しました。

先進地調査は、屋久島森林管理署岩本清文次長、屋久島森林生態系保全センター黒木興太郎所長、山部国広自然再



白谷雲水峡での説明の様子

当署としては、今回の調査は民国連携の取組として熊本県と菊池市への支援を行うことが出来、県・市担当者からは、「先進的な取組を行っている屋久島の事例が非常に参考となった」等の感想が聞かれ、先進地調査の成果が本年から新しいピンターセンターがリニューアルオープンする菊池渓谷の今後の様々な維持管理に反映されることが期待されます。

生指導官、屋久島レクリエーションの森保護管理協議会担当者等の案内により、1日目は屋久杉自然館と大川の滝風景林を、2日目は屋久島自然休養林の白谷雲水峡とヤクスギランド内、荒川登山口で森林軌道の状況を調査しました。3日目は昨年竣工したばかりの屋久島町新庁舎内において、屋久島町観光まちづくり課と屋久島レクリエーションの森保護管理協議会及び屋久島署・保全センター担当者との意見交換会を開催し、事前に質問していたレク森施設の維持管理、安全対策や入林基準、協力金等について回答を頂きながら、活発な意見交換を行いました。



意見交換会の様子

## 伊万里市・有田町との勉強会 及び意見交換会を実施

【佐賀森林管理署】2月13日に佐賀県伊万里農林事務所会議室において、伊万里有田地区森林・林業民国連携支援チーム勉強会及び意見交換会を実施しました。

この勉強会及び意見交換会は民国連携推進の取組の一環として実施され、佐賀県伊万里農林事務所、伊万里市、有田町の林務担当者及び伊万里西浦森林組合が出席し、当署



意見交換会の様子

最後に、引き続き当署と県市町との連携を密に深め、地域林業の発展に向け協力・支援することを確認し、勉強会及び意見交換会を終了しました。

からは9名の職員が出席しました。勉強会では、副島利博森林技術指導官及び廣石功地域林政調整官が森林の持つ多面的



廣石調整官による情報提供

機能を持続的に発揮するための目標林型（ゾーンング）の考え方や、日本の林業の現状及び森林資源の利用方法について説明を行いました。



副島指導官による情報提供



# 綾町公民館大会で 綾プロ事業報告を実施

2月9日、綾町公民館文化ホールで開かれた「令和元年度綾町公民館大会」において、綾の照葉樹林プロジェクト（以下「綾プロ」という）事業報告の一環として、照葉樹林復元ボランティア作業で行ったシカネット設置について、当局計画課の下崎哲也森林施



公民館大会の様子

業調整官が報告を行いました。綾プロ事業報告は、プロジェクトの取組みについて、一般の方々の理解を深め取組みへの協力を頂くため、例年綾町公民館大会のプログラムに組み込んでいただいているものです。報告では、近年のシカ被害の状況や当局が行ってきたモニタリング調査の結果などを用いて、シカ被害対策の必要性を説明し、これまでの間伐作業からシカネット設置作業への変更について理解いただいた後、今年度第1回目のボランティア作業で行った、シカネット設置の作業内容や作業状況について写真やイラストを使いながら説明し、綾プロの取組みについて普及啓発を行いました。当局では、今後も



事業報告を行う下崎森林施業調整官

ディキヤラパンを招き、日南市森林整備計画樹立に向けた支援会議を開催しました。この支援会議には、局、当署、南那珂農林振興局、日南市、南那珂森林組合から14名が参集しました。会議は、桑原英隆技術普及課長から今年度（九州森林管理局）として市町村の林務担当者への勉強会など開催し森林経営管理制度への支援活動の取組を行っていることなどの挨拶のあと、福山拓也企画官から九州森林管理局の重点取組の説明、郷原寛美森林技術指導官からケーススタディ地区（日南市）のこれまでの取組状況等の報告を行った後、意見交換を行いました。意見交換では、シカ対策、主伐・再造林の一貫作業、担い手不足問題、木材の海外輸出の現状など日南地区の問題点について活発な議論が行われました。特に、日南市から民有林の再造林を推進するために1ha当たり5万円を支援していることや、南那珂森林組合で、下刈り時期に石垣市の八重山森林組合との協定により労働者の受け入れを行っていることなど新しい取組などの紹介があり活発な意見が交換されました。当局は、本日の支援会議での議論を踏まえて今後とも日南市の森林整備計画の樹立への支援及び計画の実現に向けて支援活動を強化していきます。

引き続き事業報告等を通じて、綾プロへの理解と協力をお願いしていくこととしています。  
【担当：計画課】

## 日南市森林整備計画 支援会議を開催

【宮崎南部森林管理署】2月17日に当署会議室において九州森林管理局からケーススタ



挨拶をする桑原技術普及課長



# 東北森林管理局職員が誘導伐 （一貫作業システム）視察

多面的機能發揮で健全な森林づくりのため、九州森林管理員局が取組んでいる誘導伐の現状について、東北森林管理局管内の職員（8名）が2月17日から3日間の日程で来局されました。

17日は局内研修室において、木林静夫資源活用課長の司会で情報意見交換会を実施しました。

会議に先立ち原田隆行局長より、「東北局と九州局では山も違うし、木も違うがそれぞれにより点（進んでいる点）



挨拶をする山本監査官：東北局

など、「うちではどうなんだろう？」

などザックバラソに検証してもらい、東北局で活躍していただきたい」旨の挨拶に始まり、

久保芳文森林整備部長より九州局の管内概要説明、中島純也生産係長から誘導伐の取組、

松下俊二造林係長から造林用苗木についてそれぞれ説明を行った後、東北局から事前質問があった、誘導伐の方法やコンテナ

苗生産に関する事項について九州局の取組を説明しました。

18日は、この冬一番の積雪のなか、長倉樹苗園（宮崎市田野町）へ移動し、長倉良守氏から「パーパーポットを使用したコンテナ苗の増産への取組と植穴掘削（ほるほるくん）を使用した植林作業軽減」

の説明、東北局からは、挿し



誘導伐箇所での意見交換の様子

木よる苗木生産（特に新たな取組みのミス、水耕栽培）について活発な質疑がありました。

19日は都城支署管内の誘導伐箇所において、支署職員、事業受注事業者（永島・高崎・愛林共同事業者）が参加した現地での意見交換会を実施しました。



長倉樹苗園での視察の様子

現地では、大童伸博総括森林整備官、水本博充森林整備官、金津圭介地域統括森林官が事業の概要説明を行い、東北局職員からの事業実行に伴う質疑に対し、支署等から現地の状況に即した具体的な作業方法等について説明しました。

今後、東北局と情報を共有して、森林整備のトータルコストの低減に取り組むこととし、3日間の視察を無事終了しました。

（担当：三井 森林整備課）

労働局・労基署と合同で安全パトロールを実施

【福岡森林管理署】2月7日

杉野隆二次長、金田伸也総括森林整備官、藤井武史森林整備官、新宮森林事務所由谷浩一森林官4名と福岡労働局主任監察監督官、福岡東労働基準監督署地方産業安全専門官等職員9名が合同で新町国有林の治山事業（地拵・植付・静砂垣工）箇所において安全パトロールを実施しました。

はじめに、杉野次長より福岡森林管理署の概要等について説明。次に新宮森林事務所由谷森林官より事業概要及び現地作業について説明を行いました。また、松くい虫対策と海岸林再生は当署の重点取り組み事項となっていることから、藤井武史森林整備官より松くい虫防除事業の状況等について資料を配布し説明を行いました。その後、請負事業者である東部林業株式会社から実施している植付作業を視察、意見交換を行いました。今年度採用になった労基署職員が6名参加しており、初めて見る植付作業に「松よりの潮風に強い樹木はないのか」、



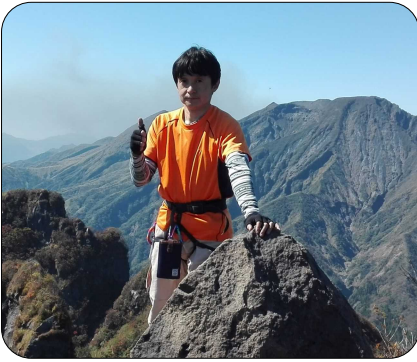
「植付間隔を1mとする理由は何か」など質問があり、藤井森林整備官がわかりやすく説明を行いました。

労働局からは、林業における労働災害発生状況、安衛則の一部改正などについて資料を基に説明を受けました。

また、安全パトロール結果について労基署より講評を受け、重機を併用した作業の在り方、福岡県での林業災害を



登山が好きで、九州各地の山に登っています。阿蘇・九重・祖母・九州脊梁の雄大な山々、北は対馬の「洲藻白嶽」から南は屋久島の「宮之浦岳」に至るまで、



### 武見 徹さん

今回の「国有林モニター」に応募させていただきまきたい。そんな思いから、感謝し、私自身も将来世代にこの自然を伝えていきたい。そんな思いから、

「九州百名山」と呼ばれる全ての山に登りました。山頂からの眺めの素晴らしさは勿論ですが、四季折々に姿を変える樹木や森の美しさに触れるのが楽しく、やめられない趣味となっています。九州の豊かな自然を維持することに日々努力して下さっている皆様に



植付作業を視察・確認



意見交換の様子

踏まえた安全対策についての指導がありました。この安全パトロールは今年度2回目となりますが、今後も請負事業者等の災害の未然防止に努めていくことを確認し、労働局、労基署へは引き続き、国有林の労働安全衛生管理について、ご指導・ご支援をお願いしました。

## 「木と子供のふれあい教室」を開催

【西都児湯森林管理署】当署では、西都市内の3つの小学校を対象に3年に1度の周期で子供たちに木のぬくもりを感じてもらい、木や緑への関心を深めてもらうために「木と子供のふれあい教室」を開催しています。今年度は、2月6日に西都市立穂北小学校

## 「森林経営管理制度への期待」

めるのも大きな特徴となっております。小規模零細な森林所有者が多数を占めるため、「林業」を生業とする人がいない。所有者が代替わりして山林への関心が低くなり、管理放棄され

が、実は山や森林も多いのです。地域の約40%は森林で、うち国有林は約15%、公有林を含む民有林が約85%以上を占めています。そして、都市近郊林であるが故にでしょうか、1ha未満の森林所有者が約70%を占

た森林が増えている。つまりは森を守る「森人(守り人)」が減ってきているのです。とりわけ「放置竹林」の森林への侵食は深刻で、市内の山の中を歩いていると、杉や檜の人工林や、貴重な照葉樹の森の中にさえ、

竹林が侵食してきているのを至る所で目にします。遠目からは緑に見える山々も、一歩森の中に足を踏み入ると、樹木が竹に取り囲まれて蝕まれているのがわかります。そんな痛々しい樹々を目にする度に、竹を切っ

今年度からスタートした「森林経営管理制度」は、そんな課題を克服するため第一歩であるかと期待しています。森林から恩恵を受ける全ての人々、所有者・林業従事者、そして一般市民が協力して、新しい「森人(守り人)」となつて次世代のための森づくりを進める。そんな未来を勝手に想像しています。そしてそんな「森人(守り人)」の一人に、私自身も加わっていきたくと思っています。

(北九州市在住)





森林と仕事の講話を真剣に聞く児童

の4年生33名を対象に、西都児湯森林管理署、西都市役所、西都市林活協議、西都木材壮青年会が合同で開催しました。ふれあい教室の中では、森林と仕事についての講話と木工品（本棚）の作成を行い、森林と仕事についての講話では、当署職員の朝田清子技官が分かりやすく森林に係わる様々な仕事の説明や高性能林業機械、無人航空機を利用した最新の林業について講話を行い、説明後は児童たちから時間いっぱいまで様々な質問が飛び交い、専門的知識を有する仕事や身近にある木材の質問などで大いに盛り上がり

ました。

木工品の作成では、2人1組となりお互いに助け合いながら、釘打ちの作業を行ったり本棚のデザインを考えたり慣れない作業の中一生懸命取り組んで本棚を完成させることができました。

また、先生方にも参加してもらいました。子供たちと同様に慣れない作業に苦戦されているようでした。

最後に、児童代表からお礼の言葉があり、無事にふれあい教室を終了することができました。今後も、子供たちのさらなる成長を手助けできるように、このふれあい教室を続けていく考えです。



本棚作りを終えて記念撮影

## 令和元年度第2回屋久島世界遺産地域科学委員会及びヤクシカ・ワーキンググループ会議を開催

2月15日・16日、今年度第2回目の屋久島世界遺産地域科学委員会と同委員会のヤクシカ・ワーキンググループ（WG）の会議が鹿児島市宝山ホールにおいて開催されました。

15日のヤクシカWGでは、開会に当たり事務局を代表して九州森林管理局井口真輝計画保全部長から「シカの被害対策は、捕獲と保護

柵による防護をうまく組み合わせて行うことが重要であるが、捕獲に従事する人が不足していることから、捕獲従事者の育成と補助金などの充実を図る必要がある。また、獲作業の効率化の観点から、ワナの見回り負担の軽減と捕獲したシカの埋設負担軽減が重要。今後の取組などについてご意見をいただきたい」と挨拶。

その後、屋久島町、鹿児島県、環境省、九州森林管理局の関係機関から、

今年度の取組状況などが報告され、委員からは「西部地区では減少傾向が見られる」「標高の高いところの個体数を調整する必要がある」「ワナによる捕獲では警戒心の強いシカが増え、捕獲しづらくなった」などの意見が出され、また、矢原座長から遺伝マーカーを使ったヤクシカ集団間



科学委員会の様子

の移住と遺伝的に見た集団について、最新結果の情報提供がありました。

16日の科学委員会では、各種モニタリング調査の結果報告と次年度計画、九州森林管理局が事務局を務める高層湿原保全対策検討会などの各検討会の報告、遺産地域管理計画の見直しのほか、前日に開催されたヤクシカWG検討内容の報告等を行いました。

委員からは、「屋久島は口永良部島の風下であり、降灰の影響が大きいことから、噴火に伴う降灰調査については、関係機関を含めて全島内で取組むことが重要である」「5月の豪雨災害を教訓に組織的な対策が望まれるが、観光客の避難誘導についてしっかりと記載すべき」などの意見が出されました。

九州森林管理局では、こうした意見を踏まえながら、引き続き関係機関と連携を図り屋久島世界遺産の適切な保全管理に取り組んでまいります。

（担当：計画課）



## 「海岸林の再生を」 奈多植林会植樹祭開催

【福岡森林管理署】2月23日、福岡市東区奈多地区の中裏付国有林において植樹祭が行われ、当署より杉野隆二次長、金田伸也総括森林整備官、藤井武史森林整備官、新宮森林事務所由谷浩一森林官が参加しました。

この植樹祭は、「ふれあいの森」協定を締結している「奈多植林会」が地域における森林づくりの一環として「植樹祭」を開催しているもので今年で21回目となります。当日は、雲一つない好天に恵まれ、総勢350名の会員や地元住民、奈多小学校生が参加。式典では今林会長が国



青空の元参加者で植林



植林する親子の様子

有林のフィールド提供にお礼を述べられました。来賓者を代表して杉野次長より「地域と連携した海岸林再生に向けた取組み」は当署の重点的取組みであること、今後とも会員をはじめ地域住民のご理解とご協力をお願いする旨あいさつを行いました。

その後参加者らは、植樹会場へ移動し、スーパークロマツの苗木千本を丁寧に植林しました。平成24年をピークに減少している松くい虫の被害ですが、奈多地区は特に被害の大きかった地域であり、奈多植林会や地元住民、福岡県、福岡市の官民一体となった協力体制により被害地の植林はほぼ終了することが出来ました。今後は、松林の健全な育

成を図っていくことが当署の重要な課題となります。

## 【熊本森林管理署】当署管内 先進的な工場 調査を実施

には、全国でも先進的な竹等を原材料とした新建材等の製造販売と竹・パークを活用したバイオマス発電所が南関町で稼働しているとともに、スギ製材品を重ねて束ねることで製造するスギBPP材(※)の製造販売を日本で初めて国交大臣認定を受けた工場が山鹿市で稼働しています。

このことから、管内の木材と竹材の需要拡大の検討と当署職員の資質の向上を図ることを目的に、2月19日に当署職員20名が参加して先進的な



バイオマス発電所視察の様子



スギBPP材製造施設の視察の様子

工場調査を実施しました。

午前中は、竹の新建材等の製造販売と竹・パーク材バイオマス発電等を行っているバンブーフロンティア(株)、バンブーマテリアル(株)、バンブーエナジー(株)を訪問して、山田浩之代表取締役会長等から会社と施設の概要説明を受けた後、団地内にあるバイオマス発電所の稼働状況や竹の新建材の生産施設等を視察しました。

続いて午後からはBPP材を製造販売している工芸社・ハヤタ(株)において、早田允英代表取締役等から会社と施設の概要説明と、スギ、ヒノキBPP材の生産施設を視察しました。

参加した職員からは、様々な視点から活発な質問が出る

など日頃見ることが出来ない全国でも先進的な工場を視察することが出来て、大変有意義な工場調査となりました。

(※)BPP材とは、スギやヒノキのA材(構造用製材)の特性を活かした新しい木質材料で、接着剤で積層(縦方向に重ねた材・Piling)した構造用製材を接着剤で束ねた(横方向の接着・Binding)大断面の木質複合軸材料です。

## 佐伯市林業振興協会による八女市 及びおいた材PR拠点訪問

【大分森林管理署】2月12日から13日の2日間、佐伯市林業振興協議会(会長・宮脇佐伯市椎茸生産組合連絡協議会会長)の委員により、福岡県八女市及びおいた材PR拠点を訪問(大分森林管理署から植薄和彦森林技術指導官(同協議会委員)が出席)しました。

1日目は、福岡県八女市林業振興課と森林経営管理制度の取組み状況について意見交換を行いました。

八女市から、若杉林業振興課長、堀下林政係長、山口林政係の3名出席いただき、若杉課長から八女市における森



林の現況や本年度の森林環境譲与税に係る事業内容、取組状況など説明をいただきました。

その後、佐伯市農林課の染矢主任から、佐伯市林業振興協議会の中で議論・答申した、未整備森林調査（業務委託）事業、再造林担い手確保支援事業、林業就業環境改善事業などの森林環境譲与税を活用した取組みについて説明を行い意見交換を行いました。

2日目は、福岡市にある「おおいた材PR拠点」を訪れました。

はじめに、専務取締役からプレカット工場で取り組んでいる現状・課題などの説明を受け、その中の一つ、プレカットについて説明があり、従来からすると高精度、高強度、工期の短縮が可能、品質の安定など技術も進化している現



おおいた材PR拠点を訪問



意見交換会の様子

## 心の健康づくり 講話を実施

【鹿児島森林管理署】鹿児島森林管理署では、今年度の安全管理計画書で計画している「心の健康づくり講話」を2月13日に実施しました。

当日は、心の健康づくり相談員の野間ロクリニックの野間口先生より「コミュニケーション手段の変化とメンタルヘルス」と題して講話を受けました。

講話では、現代社会のコミュニケーション手段であるメール等による影響やネットによる価値観の変化等によるストレスでメンタルに不調を抱える者が増加している現状等や



野間口先生の講義の様子

問題点についての講話のほか、先生が配布したチェックシートで自らチェックを行いました。

現在、森林管理署の業務もメールによる作業依頼が中心で処理案件も多いことから、職員自らの心の健康づくりも含めた健康管理に注意し今後も業務に取り組んでいくことの重要性を感じる講話となりました。

## 民間連携合同 研修会を実施

【福岡森林管理署】2月26日、八丁越地域森林整備推進協定に係る国有林の保育間伐【活用型】箇所において、福岡県フォレストア協議会、福岡県



林内を見ながら意見交換の様子

はじめに、当署から事業の概況説明を行い、その後、事業実施者である（株）MC河津の現場代理人から、伐倒・集材・玉切り・路網作設等において苦労した点や工夫した点などを聞き、林内を巡りながら質問や意見交換等を行いました。今後においても、民有林と国有林が協力関係を継続し、様々な研修会などを通じて知識や技術の向上に努めて行くことが重要であると確認しました。



事業者による説明の様子



## 安全勉強会で刃物の研ぎ方等を実施

【鹿児島森林管理署】鹿児島森林管理署では、刃物による災害を未然に防止する目的で、1月期の安全勉強会において刃物の研ぎ方等の勉強会を実施しました。



腰なたを研ぐ実習の様子

当日は、資料で刃物の正しい使い方、間違った使い方、災害事例等を久保田修次長が説明したあと再任用現場系の行政専門員2名が講師となり、腰ナタと砥石を直接使用し、特に刃物に不慣れな若手職員を中心に刃物の研ぎ方のポイントや安全に研ぐ扱い方等に

ついでに指導を実施しました。刃物を研ぐ技術は、経験の浅い職員には、なかなか難しく感じられ今後も経験を積んでいくことが必要と感じた有意義な1日となりました。最後に今後引き続き刃物災害を起こさないことを誓い勉強会を終了しました。

## 国有林クリーン活動を実施

【大分森林管理署】2月21日、佐伯市宇目の大分県・宮崎県の県境を通る、国道10号線沿いの切込国有林から三本国有林の約5km区間において「国有林クリーン活動」を実施しました。

当日は、佐伯河川国道事務所 西日本土木(株)、小田開発工業(株)、(株)佐々木建設、佐伯市清掃課、佐伯市宇目振興局及び熊本林業土木協会員の小倉建設(株)、清川産業(株)、(株)菅厚組、九州緑化施設(株)、大政建設(株)の皆様のご協力をいただきとともに、大分森林管理署の職員と合わせて約40名により不法投棄されたゴミの回収作業を行いました。

はじめに、坂本和隆大分森林管理署長から、「国民共通の財産である国有林は、国土の保全やレクリエーションの場としても広く利用していただいているところです。しかし、その一方で人目につみにくい森林内に、家電製品などの不法投棄が後を絶ちません。本日は、投棄されたゴミを回収し国有林をクリーンにする活動を(国道10号線沿いも含めて)実施いたします。実施にあたり、関係機関、企業のご理解ご協力にあらためて感謝申し上げます」と挨拶を述べました。



本村技官からの回収ゴミの報告

つづいて、古閑智之総括事務管理官からゴミ回収作業に

あたることの注意事項等について説明を行い作業に入りました。作業は、人目につきにくい国有林内と国道10号線沿いを2班に分かれて実施し、作業終了後、本村颯己技官から冷蔵庫2台、テレビ3台、空き缶・ペットボトル等約40袋を回収し、4トントラック、2トントラック、軽トラの合計3台分のゴミを回収した旨報告がされました。不法投棄防止に対する当署の対応は、日常の巡視業務を強化するとともに、今後も地元佐伯市、関係機関の協力も得ながら引き続き取り組むこととしています。



クリーン活動参加者の皆さん

## 「三里松原」で松葉かきを実施

【福岡森林管理署】2月9日、多少曇り空ではありましたが時々日差しも差し込み風もななく作業しやすい天候の中、三里松原防風保安林保全対策協議会(以下(協議会)という。)主催のもと地域住民約150名が参加し、岡垣町の三里松原(黒山浜国有林3105林班内)で、昨年12月に続き第2回目の松葉かき作業を行いました。

この取組みは防風等の保安林機能の役割を担っている松原の維持管理活動を目的とした体験林業です。



掻き集めた松葉をトラックに積み込み

岡垣町長や協議会会長の挨拶





参加された地元の皆さん

撈の中で、国有林の海岸松林の再生が進んでいる旨の紹介もあり、国有林の取組みに対し地元の期待が大きいと感じたところです。

作業には70才を超えるお元気な高齢の方から小学生以下のお子さんまで幅広い年齢層のみなさんが参加されました。

また、当署からは署長の外2名の職員が参加し、熊手で松葉をかき集めたり、集めた松葉を軽トラックへ積み込み込んだりして一緒に汗を流しました。

作業後は、参加者の皆さんと用意された具沢山の豚汁、おにぎりや飲み物を美味しく頂きました。

# 「綾プロ」照葉樹林復元 ボランテア作業を実施

2月20日、今年度2回目の照葉樹林復元ボランテア作業として、前回に引き続きシカネット設置を行いました。

今回の作業には、大和ハウス工業株式会社の社員及び一般の参加者合わせて22人が、ボランテアとして参加してくださいました。

当日参加者は、川中自然公園の駐車場へ集合、九州森林管理局下崎哲也森林施業調整官が開会挨拶と作業内容の説明を行った後、シカネットや支柱などの資材を分担して担ぎ作業地へ向かいました。

途中休憩を兼ねて、宮崎森林管理署藤本泰樹森林官補から綾の森林や昔の林業などについて説明があり、参加者は当時の情景を思い浮かべながら説明に聞き入っていました。

現地では、宮崎署職員から設置方法の説明を受けた後、3班に分かれて作業を開始。足場の悪い所もありましたが、参加者はスタッフ

フの指導を受けながら、支柱の設置やネット張りに汗を流し、1時間半ほどで立派なシカネットが設置できました。

最後に現地で集大写真を撮った後駐車場へと移動し閉会式を行い、宮崎署山崎泉次長から作業参加へのお礼と綾プロへの理解と協力について挨拶があり全日程を終了。参加者は今日の作業を振り返りながら笑顔で現地を後にしました。

このボランテア作業は、



綾の森林等の説明をする様子



シカネット設置の様子

綾プロの取組みを一般の方々にも普及啓発するための機会として、継続して実施していくこととしています。

(担当 計画課)

## 地域住民と不法投棄物 監視パトロールを実施

【宮崎南部森林管理署】2月19日に日南市北郷町の北郷まちづくり協議会主催による不法投棄物監視パトロールを実施しました。

参加者は、地元自治会、日南市、当署職員19名で日南市北郷町の国有林林道及び市道の総延長50kmを実施しました。

同協議会では、例年この時期に不法投棄防止の啓発活動



参加された地域の皆さん

を行っており、今年もテレビ7台、冷蔵庫6台、パソコン1台など4トントラック1台、軽トラック3台分のゴミを回収しました。

今後も地域の皆さんと協力して国有林を含めた地域の美化活動に取り組んでいきます。



不法投棄物回収の様子



# 静岡県掛川市を佐伯市・大分森林管理署で訪問

【大分森林管理署】1月30日から31日の2日間、大分県産材の活用状況の見学と静岡県掛川市における森林経営管理制度の取組みについての意見交換を行うため、佐伯市農林課 染矢主任、大分森林管理署 植薄和彦森林技術指導官（佐伯市林業振興協議会委員）の2名が東京・静岡県掛川市農林課を訪問しました。



意見交換会の様子

1日目は、本年7月に開催される東京オリンピック・パラリンピックの選手村ドレック・ツプラザを見学し、環境に配慮した持続可能な大会を実現するため国産材を使用して建設中で、資材は全国63自治体から約1300・の木材が提供され、そのうち大分県佐伯市からも提供されています。提供された材は、佐伯広域森林組合（代表理事組合長・戸高壽生）の協力により佐伯市の森林から搬出された木材で柱や壁に使用され、大分県産材のPRも担っています。

2日目は、静岡県掛川市を訪問し、昨年スタートした森林経営管理制度の取組み状況について意見交換を行いました。

意見交換では、掛川市農林課の、堀内係長、吉澤地域林政アドバイザー（元林野庁職員）から、森林経営管理制度を円滑に進めるため、掛川市の森林環境譲与税の活用について、その方向性を見出すために、10名の委員により「掛川市森林経営管理推進協議会」を立ち上げ現地調査



国産材を使用したオリ・パラ選手村の内装

や協議会の中で議論を深め、提言をいただいた経緯、今後の森林整備の推進について説明を受けました。

その後、佐伯市農林課の染矢主任から、佐伯市林業振興協議会の中で議論・答申した、未整備森林調査（業務委託）事業、再造林担い手確保支援事業、林業就業環境改善事業などの森林環境譲与税を活用した取組みについて説明を行いました。

今回、掛川市農林課の方には業務で多用中にも関わらず意見交換の場をいただいたことに対し感謝申し上げます。意見交換を伺うことができたこと

から、今後、佐伯市における林業振興に連携して取り組んで行くこととしました。

## 「森を身近に！森のセミナー」を開催

【熊本南部森林管理署】当署会議室において、2月22日に本年度2回目山の日記念イベント「森を身近に！森のセミナー」を開催しました。

講師に、環境省希少野生動物種保存推進員の乙益正隆氏を迎え、一般参加者を含む総勢約30名が参加しました。

はじめに、木炭をミズゴケで包みその上にしのぶを巻き付けて麻ひもで結ぶ「しのぶ玉」づくりを行いました。



貴重な植物について講義する乙益氏

乙益先生より大きなしのぶ玉より小さいしのぶ玉の方が見栄えが良いとの説明があり、参加者はおにぎりサイズのしのぶ玉を楽しそうに作製していました。

その後、乙益先生により「貴重な植物の話」として、絶滅危惧種にある植物の話から薬草、毒草また、今回は貴重な生物などの話をさせていただきました。

近年増加繁殖している外来種による影響や植物名の由来また植物の方言についてなどユーモアを交えながらの講話していただき、参加者は熱心に聞き入っていました。



「しのぶ玉」を作成する参加者



# 山火事予防 パレードに参加

【西都児湯森林管理署】宮崎

県では、1月から林野火災が多発傾向にあることから、広く県民に山火事予防の意識を高めてもらうため、1月27日～31日を宮崎県山火事予防強化週間に設定し、各振興局毎に山火事予防パレードを実施しています。

今年もこの一環として、1月28日に児湯農林振興局主催の山火事予防パレードが実施され、当署、児湯管内市町村、西都市消防本部、東児湯消防組合消防本部、児湯区域森林組合などが参加しました。



パレードに向けて出発

出発式では、児湯農林振興局の外山局長から、「県内は毎年約40件、管内では昨年は2件、一昨年は8件の山火事が発生している。山火事は発生すると鎮火しづらく、最近オーストラリアでの森林火

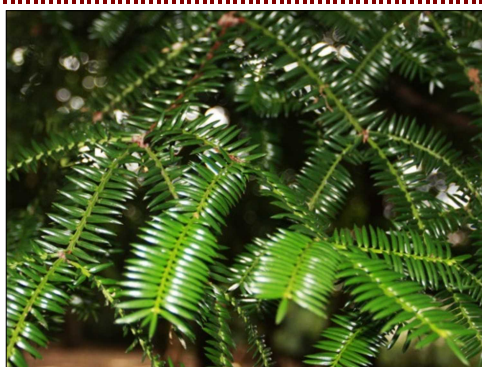
災が甚大な被害を与えており、環境にも大きく影響している。林野での焚き火、たばこを禁止するなど林野火災予防に大きくつながる」と挨拶があり、西都地区、東児湯地区、西米良地区の3地区に分かれ

て実施しました。3月は全国山火事予防運動も始まります。春先にかけては山菜採りのために入林する人も多くなることから引き続き山火事防止に取り組んでいくこととしております。

都会の中の憩いの森  
多様な植物  
藍物台樹木園の



子供の頃、カヤの熟さない種衣に包まれた果実を採ってきて、緑色の外種皮を剥ぎ、白褐色の硬い内種皮をコンクリの上で片方の頭をすりつぶして、白い中身をほじくり出しながら食べて、完全に空洞になってから、箸としてピーピーならしな



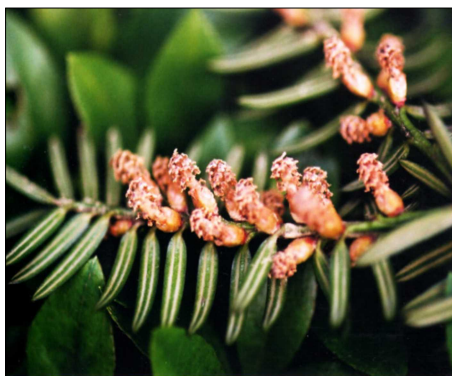
## 148 カヤ (イチイ科)

から遊んだことを思い出します。

カヤといったら碁盤、将棋盤です。営林署勤務の頃、素材1本2千万円を超えるカヤが銘木市に出していました。木材では最高級品でしたが碁盤として商品に仕上げるには、生材を購入してから10年以上の自然乾燥が必要だとの話も聞きました。

針葉を観察すると平たい葉の先端が次第に細くなり針先のように鋭く尖って、手で触ると痛くて思わず手を引っ込めてしまいます。ハリモミは四角の葉が4方から細くなって針先のように尖りますのでさらに強い痛みを感じます。

語源は、材や枝は燻して蚊を追いつぶすために使われ



た。カヤの語源は「蚊遣り」からと解説がありますが、古名の「カエ」の転訛という説が有力です。我が家のまな板はカヤ材で、すり減ると削りなおしながら使用し20年以上使用しています。

森林インストラクター

安条 行雄



例年、今の時期はインフルエンザや花粉症対策でマスクをしている人が多い時期だが今年は違う▼新型コロナウイルスの国内感染者が増加し続けている。厚生労働省は「風邪の症状が見られる時は会社を休み、外出を控えることが必要だ」と呼びかけ、農水省も感染拡大を防ぐため「テレワーク」や「時差出勤」に取り組み動きが広がっている▼また、人が多く集まるイベントやスポーツ大会なども中止するなど、自分も健康のためエントリーしていたマラソン大会も中止となった。残念半分、ほっとしているような複雑な心境である。東京オリンピックを控え予想も付かぬ事態に早い終息を望まずにはいられない▼あと一か月もすれば桜が満開になる季節が近づいてきた。現場にいる頃は山に咲く綺麗な桜を遠望で見ると春の訪れを感じ、なぜか気持ちがあほっぽりとなったことを思い出す。江戸時代頃までは桜は縁起の悪いものとされていたことがあったようです(諸説有り)。理由の一つとして「散る」イメージが強いからではないでしょうか▼これから子供の卒業式や入学式など控えている方もいらっしゃるでしょうが、のきなみ行事が中止または縮小となる方向となり、桜舞い散る中での思い出作りが出来ない子供たちに一杯のおめでとうを伝えたい。

(た)